

# KANSAI Univ. News

関西大学通信

2010年  
3月1日  
第374号

*The first issue was published on June 19, 1969 and renewed on October 1, 2009.*

■バンクーバー五輪応援会フォトグラフィー

## やったぞ高橋大輔さん 銅メダル! おめでとう織田信成さん 7位入賞!

■キャリアセンター

## 「就職活動Q&A」



バンクーバー五輪フィギュアスケート男子フリープログラム応援会場の様子  
(関連記事2・3面参照)

# バンクーバー五輪応援会フォトグラフィー

高橋大輔さん(大学院文学研究科M2)、織田信成さん(文学部4年次生)が大活躍したバンクーバー五輪。日本時間2月19日に約700人の参加者を集めて開催されたフィギュアスケート男子フリープログラム応援会の様子と現地バンクーバーで応援した本学応援チームの様子を紹介します!



## 応援会場で喜びのコメントをいただきました!



**アイススケート部副主将 澤田亜紀さん(文学部3年次生)**  
「身近な先輩が五輪に出場するということは、すごいことだと思いました。高橋先輩のステップのあたりから泣きそうでしたが、メダル確定までは祈るような気持ちで演技を見ていたので、緊張しました。」



**アイススケート部 町田樹さん(文学部2年次生)**  
「最後まであきらめずに演技をしていた2人の強い精神力を感じ、自分自身も勉強になりました。高橋先輩、日本人初の男子フィギュア銅メダル獲得おめでとうございます。次は自分も五輪の舞台で活躍できるように頑張ります。」

**応援団 木原寿規さん(経済学部2年次生)**  
「まず2人にお疲れさまですと言いたいです。順位は気にせずに、満足のいく演技をして欲しいなと思いながら応援していました。世界最高の舞台で、日本中に元気を与えてくれた2人の演技が、関西大学のみんなをひとつにしてくれたと思います。」

**応援会に駆けつけてくれた 浅野光来さん(文学部3年次生)**  
「2人とも堂々とした演技だったので感動しました。大舞台上で活躍する2人を見て勇気づけられました。私は現在就職活動中なのですが、同じ関大生として2人に負けないよう、私も就職活動を頑張ろうと思います。」

## 号外が発行されました!

2人の活躍を記念し、新聞各社が号外を発行しました。関大スポーツ編集局は、新聞各社に先駆けて準備をし、競技終了後一早く号外を応援会場で配布しました。



## バンクーバー五輪会場現地レポート

バンクーバー五輪会場には、本学から楠見晴重学長率いる応援チームが派遣されました。



## 現地バンクーバー応援チームからのメッセージ

### 楠見晴重学長

「2人ともよくがんばったと思います。高橋君は銅メダル、本当によかった。織田君は途中アクシデントもあったが、最後までよくがんばった。7位入賞おめでとう。両選手に声援を送ってくれた、すべての方々に心からお礼を申し上げたい。」



### 第88代応援団団長 森山佳広さん(社会学部3年次生)

「感動したの一言です。メダルと入賞、2人ともおめでとうございます。アクシデントもありましたが、4年に一度の舞台で最高の滑りをありがとうございます。」

## 応援してくれたみなさんに 競技終了直後の高橋大輔さんから 喜びのコメントが届きました

「今日はみなさん本当にありがとうございました。金メダルじゃなかったんですけど、銅メダルを持って帰ります。本当にありがとうございました。これからもがんばりますので、応援よろしくお願いします。」

## 考動するゼミ

社会学部  
片桐新自 教授

### 学遊究友! (学べ、遊べ、究めよ、友と!)

#### Q. ゼミの研究テーマは?

A. ゼミのテーマは、「社会学的想像力と歴史的想像力」です。社会学的想像力とは、身近な現象であっても社会全体との関わりの中で理解しうる能力のことを言い、歴史的想像力とは、今存在するものが長い歴史的営為の積み重ねの結果としてあるのだということを理解しうる能力のことを言います。



先生の誕生日を祝うゼミ生たち(前列中央が片桐先生)

#### Q. 具体的な研究内容を教えてください。

A. 歴史的環境の残る町を歩き歴史的想像力を養うとともに、現在起きている様々な出来事を、社会学的な観点から議論をして、分析する力を養っています。個々のゼミ生が研究しているテーマは様々です。問題発見力こそ、大学生が修得すべきもっとも大事な能力だというのが先生の考え方だからです。

#### Q. このゼミの魅力は何ですか?

A. オン・オフをはっきりさせ、学びも遊びも一生懸命やる場所です。学ぶことも遊ぶことも楽しいと思えてきます。また、社会に出る私たちが身につけておくべきマナーの指導も厳しく、人間としても成長できる点です。



ディスカッションの様子

#### Q. 先生を自慢するとしたら?

A. 片桐先生は、ゼミ生ひとりひとりの個性を引き出してくれる「頼れる熱血お父さん」です!その上、なんでも社会学的に分析してくれる極上の社会学者です。気持ちは学生以上に若く、大学生よりも動きます、歩きます、はしゃぎます!ゼミで一番元気なのは先生です!

#### Q. その他紹介したいことがあれば教えてください。

A. 毎年12月に「片桐ゼミの集い」という卒業生・現役生合わせて100人以上が集結する大イベントがあります。何年経っても愛される先生。何年経っても愛される教え子。「タテヨコつながり」の絆を感じられる素晴らしいイベントです。

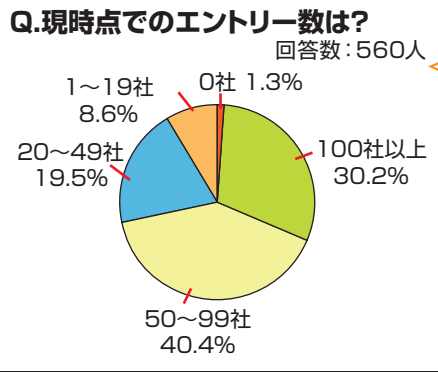
## KUカレンダー<sup>3</sup>/01-15

日程	イベント・行事名	主対象	問い合わせ先
5日(金)	からだ気づき公開ワークショップ2010 in 明日香 (~7日)	学生・教職員・一般	文学部身体運動文化専修
6日(土)	第2回秋フォーラム	学生・教職員・一般	英語教育連携センター
	法学研究所 第84回特別研究会/第9回マイノリティ・セミナー	学生・教職員・一般	研究所事務局/マイノリティ研究センター
13日(土)	国際交流研究集会	学生・教職員・一般	文学部
	特別公開講座	学生・教職員・一般	社会連携グループ
14日(日)	杭全神社総合調査報告展	学生・教職員・一般	なにわ・大阪文化遺産学研究所
	第35回飛鳥史学文学講座	学生・教職員・一般	教育後援会

イベント・行事については、予告なく変更される場合があります。また、今後追加・中止となるイベント・行事もあります。詳細・最新情報については、本学ウェブサイトならびに問い合わせ先のウェブサイトなどで必ず確認してください。

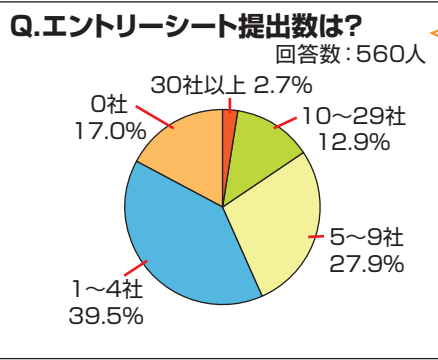
# 就活中のみんなは、今どれくらい活動してるの??

就職活動はこれからますます忙しくなります。活動中の人にとっては、周りの人の動きが気になることでしょう。そこで、キャリアセンター主催行事「就活対策講座VI」(1月29日・1月30日開催)において、関大生の今の活動状況をアンケート調査しました(無記名・任意)。



回答のあった人のうち、およそ7割の人が、「50社以上」エントリーしていました。約3割の人は、「100社以上」と回答。みなさんの活動量の多さがうかがえます。

…とは言い、就職活動はまだこれから!特にほとんどエントリーしていない人にとっては、キャリアセンターの行事に参加することが「就活をがんばろう」と考えるキッカケになったようです。就職活動で一番大事なのは「がんばろう!と思った時に、後回しにせずすぐに始めること」ではないでしょうか。



回答のあった人のうち、4割以上の人、「5社以上」エントリーシート(以下、ES)を提出している結果に。30社以上提出している人のほとんどは、エントリー数が100社以上。ES提出数は、エントリー数に比例する、ということもわかりました。

…ただし、「数打てば当たる」といった発想はお勧めできません。「質」の伴わないESが評価されることはないのです。また、選考の時期は業界や企業によって大きく異なります。「自分はまだ何もできていない…」と悲観しすぎるのはよくないことですが、変な安心感を持つのも考えもの。全体の状況をよく把握して、着実に活動するよう心がけてください。

**まとめ**

みなさんは、「周りのみんなは今何をしているんだろう?」「私だけ出遅れてる…?」など、どうしても誰かと比べがちではないでしょうか。

今回のアンケート結果は、「他人と比べてもらう」ために公開したものではありません。確かに、すべきことがあるにもかかわらず何も手をつけていない、という人には、「動き出そう」と思うキッカケにしてほしいと思います。

しかし、周りのことばかり気にして、自分を見失ってはいませんか?

就職活動は、他人と比較・競争するものではなく、自分自身としっかり向き合う機会と考えてください。

自分を客観視して、「焦らず、でも着実に」活動を進めていきましょう!

**就活対策講座のアンケートから、みなさんの質問にお答えします!**

**Q エントリー数は多いほどいいの?**

**A** 限度はありますが、多くしておいた方がよいでしょう。エントリーしなければ、その後の採用情報が一切届かないのです。なお、エントリー後、いくつかの選考を経ていく中で、「合」あるいは「否」の判断をされます。志望度の高いところだけにエントリーして、結果すべて「否」になった時のことも考え、できるだけ多くしておくべきでしょう。ただし、どこにエントリーしたかわからなくなるようでは困ります。「自分が把握できる範囲内でできるだけ多く」を心がけましょう。

**Q 同じ内容のES(エントリーシート)でも受かる時と受からない時があるのはなぜ?**

**A** 当然です。ESは、筆記試験のように点数で絶対評価できるものではないからです。1社受かったからといって、「これでOK」と思い込むのはキケンです。また逆に、1社受からなかったからといって、「何がダメなんだろう…」と落ち込みすぎるのも考えものです。「合」「否」によって一喜一憂せず、常に「改善」の気持ちを持って推敲を重ね、自分自身と向き合っていくべきでしょう。

**Q 志望業界は絞った方がいいの?**

**A** 極端に絞る必要はありません。みなさんは、世の中にある企業のうち、いったいどれだけの企業を知っていますか?また、それぞれの企業がどう関連しているのか、しっかりと把握できていますか?みなさんの知っている世界は実はかなり限られたものです。そういった限られたところしか見ない、というのはあまりにももったいなく、自分の可能性を、自分で勝手に狭めてしまうことになりかねません。また、**Q**「エントリー数は多いほどいいの?」に対する回答にあるように、すべての結果が「否」になった時のことも考え、少しでも興味のあるところは見ておくべきでしょう。しかし、全く関連性の無い業界、しかも大手企業ばかりを狙うのは考えものです。志望する以上は、しっかりとした理由があるはず。なぜ、自分はこの業界に魅かれるのか、どこに興味があるのかを、よく自問自答してみてください。答えが見当たらなければ、安易に選択しているとしか評価されません。

**みなさん、就職活動に対して誤った理解をしていませんか!?**

**Q「ゴールデンウィークまでに決まらないうちも無理」…!?**

**A** 「ほとんどの人は5月までに内定を得る」というウワサ。実際はどうかと言うと…例年、その頃までに内定を得、就職活動を終えるのは、関大生のほんの1~2割程度。多くの人は、それ以降もずっと、活動を続けています。もちろん、キャリアセンターの支援も続きます。2009年度は、4年次生に対して、11月まで学内セミナーを随時開催、卒業まで相談に応じていきます。就職活動は、5月以降がむしろ本番!

**Q「うまくいかなかったら留年もあり」…!?**

**A** 就職活動がうまくいかなかったら、早々に留年を考える人もいます。もちろん、やりたいことがあるなら、選択肢としては「アリ」でしょう。しかし、例えば「行きたい企業に内定をもらえなかったから」であれば、もう一度活動したとして、意中の企業に内定をもらえる保証はありますか?そもそも、その企業が採用活動をするという保証は?つまり、単に「問題の先送り」に過ぎない、そんな留年は、決して「アリ」ではありません。ましてや、大学入試のように点数評価されるものではないので、一度「NO」と判断された企業には、何度アタックしても結局答えは「NO」となる可能性が非常に高いのです。安易に留年を選択する前に、自分の就職活動をきちんと振り返り、整理し、問題点を解決しておくことの方が大切でしょう。